

神領小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学習や活動を実践し「わかった」「できた」「がんばった」という喜びや達成感を味わえる授業づくり
- 聞く・読む・話す・書く力を身に付ける授業づくり

学力向上検討委員会構成

- | | |
|---------|-------------------------|
| 学力向上推進員 | 委員 校長 海老名 正規 教頭 中岡 奈々 |
| 教諭 | 教務主任 武市 由美 人権教育主事 前川 直哉 |
| 伊月 沙織 | 生徒指導主任 後藤 莉子 |
| | 特別支援コーディネーター 蔭山 祥子 |

校長

海老名 正規 

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算などの基礎的な力が定着してきている。 ○課題に対して真面目に取り組む児童が多い。 ●習得した知識・技能を活用して問題を解決することに課題がある。 ●読み取ったり、聞き取ったりすることを苦手とする児童も多く、個々の学力差が顕著である。	・基礎・基本の力を確実に身に付け、様々な学習や生活の場面で、習得した知識・技能を活用することができる。 ・めあてをもって学習に取り組み、自分なりの解決方法を身に付けることができる。	・朝の学習時間等を活用し、基礎的・基本的な力の定着を図る。 ・読み取り問題を反復的に学習することで慣れ、苦手意識をなくしていく。 ・TT指導や習熟度別学習をより効果的に行い、個に応じた指導を継続する。 ・めあてを明確にした授業、問題解決型学習の授業展開にすることで、既習の知識・技能を授業内で活用する場面を設定する。			

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを伝えたり、友達の考えと比べながら聞いたりすることができるようになってきた。 ●友達の考えと比べながら聞き、自分の考えを再構築したり、根拠や理由を明確にしながらかたりすることが難しい。	・目的に応じて、根拠や理由に明らかにしながら、自分の考えを進んで伝え合ったり、相手の考えに耳を傾けたりすることができる。 ・友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、自分の考えを再構築することができる。	・安心して話すことができるよう、ペアやグループなどの小集団で考えを伝え合い、その後、学級全体で考えを深め合い、協働的な学びを充実できるようにする。 ・根拠や理由を意識して考えを伝えることができるよう、問い返し(発問)を大切にできる。 ・必要に応じて「聞き方・話し方ナビ」やホワイトボード、ICTを活用し、自分の考えを表現できるようにする。			

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の学習や家庭学習に、意欲的に取り組むことができる。 ●苦手克服に向けて学習に取り組んだり、自分で課題を見つけて取り組んだりすることは、まだまだ課題である。	・学ぶ楽しさを感じ、課題や自主学習に積極的に取り組むことができる。 ・自ら考え、友達と話し合い、学び合うことができる。 ・自分の学びを振り返り、自らの課題を解決するための計画を立て、実践することができる。	・主体的な学びとなるよう、課題の提示の仕方を工夫する。また、振り返りの視点を示し、児童が自らの学びについて振り返ることができるようにする。 ・児童が自力解決に向けて、活動の見通しをもつことができるようにし、考える時間や話し合いの時間を確保する。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

